
大あばれ月めんアリジゴクのきょう怖【完結】

ネアンデルタール家元

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大あばれ月めんアリジゴクのきょう怖【完結】

【作者名】

ネアンデルタール家元

【あらすじ】

竹取の翁夫婦はチートアイテムかぐや姫をゲットしてコインと名譽を増やしましたが婚活イベントが発生して都の貴族が奪いに来ました。どうにかカウンターしましたが月からラスボスがかぐや姫を回収しに来ました。翁は侍に課金しましたが強制バッドエンディング食らって試合終了しました。

。月からの帰還は大変だっただろうに：

そんな中、月に戻ったかぐや姫は何かに気付きました。追加シナリオの実装です。かぐや姫はおじいさんとおばあさんに不老不死のポ

ーションを与えてリベンジフラグを立てておいたのですが、かぐや姫が去ったことによっておじいさんとおばあさんのメンタルHPがただ下がりになってしまったのです。「かぐや姫がいないと生きていてしょうがない」

おじいさんとおばあさんは鬱のバッドステータスになってしまいました。そして不老不死のポーションをドロップしてしまいました。結果オーライだったのでかぐや姫は再び月に戻ってきました。

この後、かぐや姫は「かぐや姫から出すものを探し出している」とのことで月から戻ってきました。彼は月の王に会いますが、その人はなんとかぐや姫の生まれた月の民なのです。「月から渡った娘を月から返せ」という王様の声の下

かぐや姫は、かぐや姫の魂で月から帰ってきました。

どうでしょう。「意義あり。大蟻だ！」

月面蟻地獄にすむ蟻地獄が月の王を人質に取った。「竹取夫婦を悲しませるかぐや姫は許さん。王を返して欲しくば蟻地獄まで来い！」

クエスト、月面王者アリジゴク救出ミッションINかぐや姫

竹取の翁夫婦はチートアイテムかぐや姫をゲットしてコインと名譽を増やしましたが婚活イベントが発生して都の貴族が奪いに来ました。どうにかカウンターしましたが月からラスボスがかぐや姫を回収しに来ました。翁は侍に課金しましたが強制バッドエンディング食らって試合終了しました。

。月からの帰還は大変だっただろうに：

そんな中、月に戻ったかぐや姫は何かに気付きました。追加シナリオの実装です。かぐや姫はおじいさんとおばあさんに不老不死のポーションを与えてリベンジフラグを立てておいたのですが、かぐや姫が去ったことによっておじいさんとおばあさんのメンタルHPがだだ下がりになってしまったのです。「かぐや姫がいないと生きていてしょうがない」

おじいさんとおばあさんは鬱のバッドステータスになってしまいました。そして不老不死のポーションをドロップしてしまいました。結果オーライだったのでかぐや姫は再び月に戻ってきました。

この後、かぐや姫は「かぐや姫から出すものを探し出している」とのことので月から戻ってきました。彼は月の王に会いますが、その人はなんとかぐや姫の生まれた月の民なのです。「月から渡った娘を月から返せ」という王様の声の下

かぐや姫は、かぐや姫の魂で月から帰ってきました。

どうでしょう。「意義あり。大蟻だ！」

月面蟻地獄にすむ蟻地獄が月の王を人質に取った。「竹取夫婦を悲しませるかぐや姫は許さん。王を返して欲しくばあ蟻地獄まで来い！」

長い話を終えてかぐや姫は「次はお友達になりさえすれば私はもう十分遊んだわ。これから長いお話でした。ごめんなさいね。」

「じゃあそろそろ帰ろう。時間あるから」

「そうですね。」

その時、かぐや姫の背後から風が吹きつけました。「かぐや姫さん。大丈夫？怪我とかしてない？」

「え、何？何？」

かぐや姫が振り向いた時には風の中に居ない。

「かぐや姫さん、お友達に会いたいのですけれど」

「う〜。」

かぐやはそう答えました。

「お友達って誰？」

「私にはお友達はいません。」

「何で？」

「私、人恋しいのよ。お友達になりたいなんて思うの、かぐやお友達がいると思っていませんか？」

「いやいや、私はまだ子供なので友達なんていないわよ」

「違うのです、かぐや姫。じゃあ私の友達になってはくれませんか。」

「それは出来ないわよ！」

「じゃあ、私の友達になるのはあなた一人ですから。私を知っている人だけ友達でいてください。」

「私と友達の定義はね、一人で友達になってくれる事よ」

そういうことですか。かぐや姫は少し考え直しました。

「わかりました、じゃあかぐや姫一人でお友達になりますよ」

かぐや姫は一人になったので、今度は王様に質問しました。

「何で私と友達になりたいのですか？」

「かぐや姫は私のお友達だよ」

「そんな事はありません。」

「それならこれから、もっと友達にならなきゃダメか？」

「ダメで結構。」

「じゃあ、これからよろしく」

「かぐや姫、私は友達になったでしょうか？」

「えっ、かぐや姫はもう友達だよ。それにここに王様が居なくなっているでしょう。」

「違います！私はここにいるのです。」

「じゃあ、どうして？」

「かぐや姫は友達を作るのが得意なのです！だからここに居るのです。それに私は友達を沢山作りたいたいのです」

「友達を沢山作りたいたいのですか？」

「はいはい、私はいくつでしょうか？101です。」

「101じゃあ物足りないか？」

「えっ、何でしょうか？」

「103だろう？」

「103ならまだ103です。103にしても遅い103です。」

「103は103じゃなくて104だよ。」

「104も104です。104じゃ遅いでしょう。そしてしっかり友達とは友達ではありません」

「友達？友達になりたいのか？」

「友達と言うからには友達になりたいのです。」

「友達と言う人はね！誰といっても友達にはなれないのよ、それは分かるかしら？」

「えっ？」

「かぐや姫は友達を沢山作りたいたいだから友達になるのが得意なのでしょう」

「友達は10人と10人の様な感じなんですね」

「えっ、10人でも10人でも一人よ。」

「だから友達10人だけでも友達の10人にはなれないんですよ。10人は10人でしょ」

「その10人の友達は友達10人以下として作りたいんですか？」

「それはまだ分からないわ」

「分からないわ」

「109は友達なのか？109は友達ではないのか？」

「いや、100に1000まで入りますよ」

「何で分かるの？」

「1話から1話の話なら友達と言えば友達になるんじゃないんですか？」

「そうね、じゃあ友達10人だけ友達ではないのね」

「私の友達は友達500人になりました」

「私の友達は10人だから友達500人じゃあ友達5000人でも友達5005人で作らないといけないわね。私の友達はお2人だし」

「私の友達には友達5009人に友達5009人が居ます」

「友達が居ないと言うのと1000人達成と言うのと友達1人ですか？」

「友達が居ないと言うのと1000人と考えなさい」

「そうよね、友達は10人だけだからね、1000人限定」

アリジゴクはかぐや姫の友達の百人調達しろという無茶ぶりを達成するため運営にサーバー増強を申請しました。

「デジタル竹取の翁に美人局させられたい」メンテナンス作業中です…

はっしん！月の法善寺横丁メカ

かぐや姫が去った後、おじいさんとおばあさんは寂しさのあまり酷い鬱病になりました。しかしかぐや姫は結果オーライだと思ったのです。かぐや姫を連れ去ったのは月の都の北の海にある都はる海の晴海ふ頭軍団でした。毎年夏と冬にお台場で同人誌月面即売会を催している。莫大な収益金は月面海賊の主な収入源になって居た。月面海賊王メジャーの第一手下があつた月面アリジゴクだったので。そいつは友達百人できる稲葉月面物置を開発しました。かぐや姫の無茶ぶりに答えるため友達百人狩りの為に地球侵攻ミッションを開始しました。このままじゃ平安京はエイリアンに占領されてしまうので月の月面オンゲ運営はアイテムと石を配布しました。「詫び石キターー(。v。v)——!!」平安京の人々はおおよろこび!

その知らせはおじいさんとおばあさんにも届きました。「おじいさんやおじいさんや起きてください」

「何じゃばあさん、かぐや姫が帰ってきたのか」「いいえ、あの子は薄情者です」

おばあさんはかぐや姫が見捨てたというのです。「何じゃと?」おじいさんはショックで脳卒中になりました。でもおじいさんはおじいさんを卒業してスーパー老害に進化したのです。詫び石効果キタ——(。v。v)——!!。スーパー老害は月面アリジゴクを倒すために月の法善寺横丁に月の法善寺横丁メカを発注しました。「おやあ?戦国の女子高生も大人気ですよ」

トリッキー博士の開発した月の法善寺横丁メカ「大江戸嘘800横鳥の怪」が月面のみやこはる海めがけて

飛んで行ったのです

「おお、今では宇宙刑事も近海でやってるのか」そんな事を考えていたおじいさんでしたが、ふと夢の中の出来事を思い出してしまい、顔が真っ赤になるのでした。

完、完です。次回は月の女神について語ります。

——月の女神についての解説——

月の女神「かぐや姫は神と言えば神様ですが、その中でも特に神ではないのは、神ではなく、人です。」

「神様ではない人」と言っても「神」などでは有りません。「人」と呼ぶのです。

「神様ではない人」は、神様と似て非なる存在です。神ではない「人」なのに何故神では無いのでしょうか？ 「神」とは、人間の世界と完全同一の存在です。例え自分と同格であっても、同格ではありません。神と同格の存在と言える理由は、神様と同格の存在と言えらる理由、それは、神、あるいは神様が見えない誰かの一部だと言えるのです。「神」とその世界が同一の存在である、と言う事に関係していません。では何で分かるのでしょうか？ 「神は神と同格の存在」と言う証明です。「神」から見えている「人」とは、「神じゃない人」と言う証明です。

「神」は、「人」に姿を代えて言うのです。「人」と「神」の違いについて「神」と言う証明を証明しなければ「神」でないとさえません。

「神」に代えて言うのは、「人」に代えて言うのです。「人」と「神」の違いについて「神」と言う証明を証明しなければ「人」でないと「神」でないとと言う証明を証明しなければ「神」でないとと言う証明を証明しなければ「神」でないとと言う証明を証明しなければ「神」でないと

これられないからです。

これは一般論として認められる常識による「反論」と言っても間違いないではありません。（否定した）否定したのに反論し続けてどうなるか分からないから「否定」しているのだと言う事に何ら変わりはありません。

反論には否定（否定されたい）が「肯定」にも否定しない（否定されたい）が「肯定」にも否定しない（否定されたくない）のがあるので否定と言う行為は「肯定」と言う行為を否定しているのに否定したのだと主張する事に何ら矛盾は生じません。

「肯定を否定するなら否定を肯定する」と言う事に矛盾はないのだから「否定するなら肯定（否定を否定）する」と言う事自体に矛盾は生じないので。

「否定をするなら否定を肯定する（否定される方）」と言う事に矛盾は生じます。

「否定をするなら肯定を否定することです!!」

「キャアアア！やめてえ」

爆発炎上する月の法善寺横丁のど真ん中。逆さ釣りされたかぐや姫の悲鳴が響き渡っている。

足元にはおじいさん、おばあさん、そしてトリッキー博士の首が並べである。

「フウーハハハ！友達百人が欲しいならまず自分が愛されることだ。その為には自分という物を捨てて友達に尽くさねばならない。否定するなら肯定を否定することです！自分を無にするのです」

腫れの海ふ頭海賊団はかぐや姫を竹刀でシバキ倒しています。

ピーンチ！かぐや姫！！

スーパー埼玉人

今こそスーパーパワーを使う時です！

「助けてええ、おじいさん！」「おじいさんじゃあ、だめよ、私を呼んで頂戴、私がかぐやよ」「おじいさんがかぐや姫と呼んでくれないの」「おばあさん、お願い」かぐや姫は月の都の月の神と会話しました。月のかぐや姫はかぐや姫に力を授けました。月のかぐや姫は月から力を送りこみ、かぐや姫のスーパー埼玉人に変身したのです。月からの贈り物です。月のかぐや姫は自分の力が信じられず困惑しますが今はかぐや姫を信じましょう。かぐや姫がパワーアップしたのです。「月から来たのに、月に帰りたくねえのかい？」

かぐや姫は無言のまま、剣を振り回しました。かぐや姫の放つ気合いは海の底まで轟きます。海賊達は吹っ飛び、海面に浮かびます。かぐや姫は月面を歩きながら、海に落ちた者から順に、海の妖怪をどんどん倒します。かぐや姫はスーパーかぐや姫に進化しました。

しかし、かぐや姫はおじいさん、おばあさんに自分の名前を呼ばれないことに怒りました。おじいさん、おばあさんには、月に帰ることを知られてはならないので、おじいさん、おばあさんに「おばあさん」と呼ぶのを禁じ、また、「おじいさん」と呼びかけるのを止めてしまいました。その日からおじいさんとは気まずい関係になりとうとう疎遠になりました。月の法善寺横丁メカの甲板に築かれた「門前仲町」でかぐや姫は一人、酒を煽っています。そこへ翁と娘が通りかかり、二人は言いました。「何じゃこの臭い酒は！」かぐや姫は不機嫌そうに二人を見て、答えました。「私だって好きで飲んでるんじゃないのよ。あなた達がおじいさんとおばあさんに私の名前を呼ぶな、と言ったから飲まざるを得ないのですよ！」

そんな事言った覚えはないわよ」かぐや姫の怒りが炸裂するのです。おじいさんとかぐや姫は絶交状態になったのだった。

おじいさんとかぐや姫が喧嘩してしまった為、おじいさんは仕事が出来なくなり、おじいさんは困ってしまいました。そこでおばあさんに相談したところ、おばあさんは、月からの迎えの船に乗るために月へ行くことを決意しました。月の使者が来る前に、かぐや姫をどうにかしないと大変だとおじいさんが思い、竹取じいさんは「おとぎジジババ組合」に駆け込みました。ここにはこぶとりじいや意地悪じいや砂かけばあなど古今東西のおとぎ話に登場する老夫婦が集っています。おとぎ話に出てくるおとぎジジババが月に行く相談をしたのです。かぐや姫に復讐しようとおとぎじい達の意見が一致し、おとじいジバ婆あは「お月さまへ行ってかぐや姫を連れ帰るべよ」と言いました。おじいさんとおばあさんとかぐやひめが月に行くことに決めましたがかぐや姫のことが心配なのです。

「かぐや姫、わしらが行くまでは決してここから動いてはならんぞ」
「私は行かなくても大丈夫です」かぐや姫が拗ねたように返事をしました。

おとじいジバばあは怒ってしまいました。「何を言うちよるかぐや姫！お前がいなくなっってはわしらの苦勞は水の泡よ！」

「そんな事を言われたって知らないものは知りません。勝手に私の名前をおじいさん達に言うなど命令したのはおじいさんです。私に責任は無いです」お月さま行き船は出港してしまいました。

おとじいは怒ってしまって月に行きませんでした。かぐや姫に酷い扱いを受けて怒ったのでは無く、おじいさんに「私もお月様に一緒に行こうか？」と言われたのが嫌だったのでお月様行きを拒否しました。「おじいさんにお断りされてしまうては仕方ない」とおばあさんが代わりに出発して月に向かいました。

かぐや姫を誘拐するべくやって来たのは、お化けでございます。おとろしい顔をして、真っ赤なお腹の月の使いはかぐや姫にこう話しかけました。「あなたのおじいさんがこちらに来ていましたね。連れてきてもいいですか？」

「ダメに決まってるでしょ」

「そうですか」

かぐや姫は逃げようとするお化けを捕まえて脅しました。「お前はおとぎジジババ組合から来たのね？力づくで私を連れて行くというのなら、意地悪じじいのスキャンダルをばらすけど、いい？」

意地悪じじいのスキャンダルとは花咲じじいの妻と不倫していた件です。はなさかじいさんのお話では花咲ばあの出番がチョイ役しかないのです。ひどい時はモブ扱いなので、暇を持て余した花坂ばあは隣のいじわるじじいと真昼間からあーんなことやこーんなことをして「ウツフン♪」だったのです。そしてまずい事に桃太郎を妊娠してしまいました。そう、川からどんぶらこと流れてきたモモには意地悪じじいの隠し子が隠してあったのです。かぐや姫は「花崎さんは意地悪おじいさんの子供だから私のお友達にはなれません」と言うとおとろしいお月さまの顔は更に恐ろしいものになり、口から火を放ちました。「かぐや姫、あなたには人質になってもらわねばなりません。おじいさんは今度、私に逆らった時に使おうと思っ取っておきたかったのですが致し方ありません」おとろしいお顔が急に迫ってきます。おととい、来やがれ！！ その時です。誰かの叫ぶ声がします

「おいおい！何だこのおどろおどろした奴は。こんなのが居るなら私を連れてくるべきでしたな。私は月でも有名の妖怪退治屋ですよ」かぐや姫に迫ろうとした、怖いお化けにお化け狩りの矢が飛んできます。その隙を突いてかぐや姫が走り出します。するとどうでしょう、

おどろしいお化けの頭が爆発したではありませんか。お月さまのお面が割れると、そこには翁がいたのです。「かぐや姫。無事で良かった。」

おじいさんに手を引かれて、地上に帰ってきました。「お爺さん、おばあさんはどこに？」

「あ、お祖母さんか？それならお友達と一緒にお月様に行ったわい。」

「え！？お祖母さんはお友達いないわよ」

「何を言っておられるのかぐや姫、あなたと一緒にさ。あなたと私は友達じゃないのかね？」

（私は一人でお友達になりたいのですそうはいかんぞかぐや姫）

「じゃあお友達の印としてキスをするかい？」

「キエエエアア」

月の民に連れて行かれそうになって困っているかぐや姫を見つけ、お友達の証である接吻を交わし、おじいさん達はお月さまに行きました。その後おじいさんとおばあさんは仲良く幸せに暮らしました。めでたしめでたし。完。「意義あり！！」

「おととい来やがれ！！！」かぐや姫と月の住人の喧嘩はまだまだ続きますが 今日はいくらで終わりにしたいと思います。また次のお話をしましょうね。

「はい、本日の講義はここまでにしたいと思います。皆さん、ご清聴ありがとうございます。次回までくれぐれも、命の保証はないことはゆめゆめお忘れなきよう……」

————おしまい————

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~26104

大あばれ月めんアリジゴクのきょう怖【完結】
2022年01月02日 19時45分発行